

# ファンにやさしい 馬学講座

第3回

## 担当者のバイクの音を聞き分ける競走馬たち

トレセンにいる馬たちが、厩舎に出勤してくる厩務員のバイク音を聞き分けるというのは、よく知られた話である。何台ものバイクが厩舎にやってくる中で、自分の担当厩務員の音だけに反応して、いなないたり前がきをしたりするというのである。やはり馬は人間のことに、ことにいつも世話をしてくれる人のことはよく分かっているのだと、人としては嬉しい話である。

「しかし、これがそのまま、馬が人を認識している証拠にはならないのです」

と楠瀬さんは言う。これだけでは単なる「パブプロフの犬」現象、つまり「特定のエンジン音が聞こえてしばらくすると、餌が出てくる」という条件反射に過ぎない可能性が否定できないからだ。この条

音、匂い、それとも見た目？  
馬は何で人を識別しているのか？

件反射に関係しているのは「音」と「餌」だけで、そこに「人」が存在しなくても成立してしまうのだ。

バイク音の話から言えることは、学問的にはここまで。が、馬は人のことをちゃんと分かっているのではないかという感触はある。

そこで楠瀬さんは、馬が人を識別しているのかどうかを、別のアプローチで調べることにした。

「天井から風船が吊り下がっているような、ちよつと気味の悪い場所に馬を連れていきます。そのときに、いつも一緒にいる人と行く馬のグループと、ほとんどなじみのない人と行くグループに分け、両者を比較してみました」

知らない場所、しかもちよつと気味の悪い場所に連れてこられたことで馬は緊張し、心拍数は上がる。実際にどちらのグループにおいても、心拍数は増加したが、その増加の程度に、明らかな差が見



今月の講師

楠瀬良さん  
(日本装蹄師会特別参与/  
前JRA競走馬総合  
研究所次長)



案内人：辻谷幸民  
text by Yukihito Tsujiya



特定の装蹄師にしか蹄鉄を打たせない馬がいるが、その判別は匂いによるものである可能性も

馬は人の顔では識別していかないかも……

られたのである。いつも一緒にいる人で行ったグループの心拍数の上がり方が少なかった。

「なじみのある人がそばにいることで、馬が比較的落ち着いていたということでしょう。なじみのない人とのグループとの間にはっきりとした差がでたということ、馬が人を識別している証拠であると言えます」

では、馬たちは人をどうやって識別しているのだろう。その方法として真っ先に思いつくのは「顔」だろう。私たちが他者を識別するのにもっともよく使う方法である。

「それを調べるために、スクリーンに人の顔を映し出す実験をしました。馬に装着したメノコにCCDカメラを取りつけて、馬はどのくらい人の顔を見るかを調べたのです。馬が知っている人はじっと見る、知らない人はすぐ目を離す、といった結果が出るのではないかと、注視

している時間でモニターできるのではありませんかと期待してのものだったのですが……」  
その予想は見事に裏切られた。知っている人と知らない人との間に、はっきりとした差は見られなかったのだ。  
「人以外に動物や風景も映し出して見た



Illustration by Junko Agi

のですが、動物、とくに馬が映ったときはよく見ていました。風景、中でも厩舎の写真はじっくり見ていましたが、おそらくその写真の中に、馬の姿を探していたのではないかと思えます」

**馬は匂いに敏感、その可能性は否定しきれない……**

顔の識別、視覚による識別でなければ、嗅覚はどうだろうか。

バイク音の微妙な違いを聞き分けることから、馬の聴覚がとても発達していることは想像に難くないが、嗅覚はどうなのだろう。

「馬の嗅覚はとても敏感です。それが發揮されるのは、主に子作り、子育ての場面です」

例えば牝馬が発情しているかどうかを、馬はおしっこで判断する。これはとても決定的なものであって、乗馬の繁殖などでは牡馬の精液を採取するために偽牝台というものを使うことがあるが、この偽牝台に発情した牝馬のおしっこを塗っておけば、牡馬はたやすく偽牝台に乗っかる。偽牝台は牝馬に似せたものではまったくないので、ある意味で嗅覚が視覚に優先するとも言えるわけだ。

子育てにおいても、匂いは同様の重要性を持つ。母親が自分の子どもを見分け、確認するのも匂いなのだ。子どもの匂いを分からなくすると、母親は授乳を拒否してしまうことがある。

「馬が匂いで人を識別している可能性は

あります」

馬の中には特定の装蹄師にしか装蹄させないものがごくまれに存在する。この事象自体がなかなか興味深いのだが、この「装蹄することを許してやる装蹄師」をどう見分けているのだろうか。

「装蹄師さんが作業の際に着用する前垂れは、分厚い革でできており、使い込むほどに馴染んできて、それぞれ特有の匂いを持つようになります。もし前垂れの匂いで特定の装蹄師を識別しているのなら、別の装蹄師がその前垂れをつけたときの馬の反応を見ることで、匂いが鍵になっているかがわかっただけは「ただ残念なことに、楠瀬さんがこの話を聞いたのは、その馬が引退した後だった。結局そうした実験はできなかったが、また特定の装蹄師にしか装蹄をさせない馬が出てきたら是非実験してもらいたいものだ。」

馬が人を識別しているのは間違いない。いつも一緒にいて、世話をしてくれる人のことを、馬はちゃんと分かっているし、その人といくと安心する。それは間違いないところで、私たち馬好きにとっても嬉しいことなのだが、どうやって識別しているのかは、現在のところよく分からない。が、それは少なくとも、我々人間が他者を識別するのとはちよつと違いそうなのである。

※お詫びと訂正「本ページ4月号で「スタージェットの中心に立ったり」という部分は、「スタージェットの中心で立ち上がった」と誤記してしまいました。訂正いたします。(編集部)